

## 平成22年度徳島県立図書館協議会の概要について

1 日時 平成22年11月26日(金) 午前10時～正午

2 場所 徳島市八万町向寺山 徳島県立図書館 集会室1

### 3 出席者

(1) 委員 10名中10名出席

井上 京子	鷺敷小学校校長 徳島県学校図書館協議会副会長
井上 泰男	徳島県公共図書館協議会理事・吉野川市立山川図書館長
大塚 幸雄	NHK徳島放送局長・徳島県社会教育委員
川西 佳代子	徳島県公民館連絡協議会主事部副部長 美馬市教育委員会文化・スポーツ課課長補佐
阿部 曜子	四国大学文学部教授
小林 勝美	阿波学会会長・徳島考古学研究グループ代表
皆川 直凡	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
竹宮 悦子	徳島県読書振興協議会副会長 徳島市読書グループ連絡協議会会長
桂 豊	コピーライター、徳島ペンクラブ事務局長
板東 美智代	徳島県幼小中高PTA連合会連絡協議会家庭教育研修部支部長

(2) 文化の森振興総局 蛭多総局長、土居課長補佐

(3) 県立図書館 林館長、藤井副館長、館員8名

(4) 県立二十一世紀館 主任

### 4 議題

1 開会

2 挨拶 徳島県立図書館長

3 議題

(1) 役員選出

(2) 平成21年度事業実績及び平成22年度予算について

(3) 「サービス向上目標」について

(4) その他

4 閉会

### 5 内容

(1) 役員選出

会長に小林委員、副会長に阿部委員を選出。

(2) 平成21年度事業実績及び平成22年度予算について

(事務局より説明。)

会長 昨年度の協議会において、平成22年度からインターネットを利用した予約が開始されることについて議論がなされたが、その中で、委員から、巡回による資料援助を

実施していない図書館未設置町について、どのように配本サービスの格差を解消するのかという質問があり、事務局からは、図書館未設置町へも役場、公民館を通じて配本サービスが開始できるよう検討すると回答があったが、どのような状況となっているか。

事務局 未設置町へも巡回を開始している。巡回先は、公民館などの図書施設のあるところで、週1回である。

委員 私自身那賀町在住であるが、驚敷地区へ巡回サービスを受けているということについて、今日初めて知った。おそらく住民への周知が不十分だと思う。県立図書館は各町教育委員会に対し、地域での周知・広報を働きかけていただくとともに、市町村は住民へ周知をしてほしい。

事務局 インターネット予約は、今年10月1日から開始し、いかに広報するかというのが課題である。

放送・新聞といったメディアを活用した広報も行ったが、まだ十分ではない。今後、市町村へも広報をお願いしたい。

会長 広報について積極的にお願いするとともに、図書館未設置町への図書館設置の要請も引き続きお願いしたい。

会長 県立図書館応援事業の「雑誌スポンサー事業」、「ベストセラー寄贈事業」が新聞報道されているが、具体的にはどういう状況となっているか。

事務局 「雑誌スポンサー事業」は、今年度新聞等で周知され、関心が高い。平成21年度末で26社72誌、今年度に入り3社6誌の提供があり、現在調整中2社を含めると、約30社80誌の提供がある。今年度末で提供終了予定のところへも継続の依頼を行う。

事務局 「ベストセラー寄贈事業」は、平成21年度24人の方から41冊の寄贈をいただいた。周知については、カウンター横に掲示している。ホームページでも掲示し、2週毎に内容を更新している。平成22年度は、今日現在27人から37冊である。

委員 低価格での買取はできないか。

事務局 購入は考えていない。

会長 振興のための方策は。

事務局 現在人気のある本の提供を求めていることや、送料の負担をしていないことが課題であると考えている。

会長 図書館のOBに協力を依頼してはどうか。

事務局 職員に対する協力要請については、平成20年度に県庁職員に対する依頼を行い、15人から18冊の提供を受けている。OBに対しては行ってないが、ベストセラーを読んでいるとは限らない。

会長 平成22年度予算と事業計画について、資料費は32,305千円で、徳島市の予算と逆転したとの報道があった。このことについて各委員から意見はないか。

平成21年度計上されていた「とくしまネットワーク図書館構築事業費」720万円が、今年度計上されていないが、運営費は要らないのか。

事務局 「とくしまネットワーク図書館構築事業費」は、平成21年9月補正で約4,500万円となり事業が完了した。運営費については、別途計上している。

会長 今年度重点事業として、「こども未来応援事業」があげられているが、予算は要らないのか。

事務局 予算額は350万円であり、運営費に含まれている。子どもの図書資料費などに充当している。

会長 子どもの読書活動の推進について、図書館のとらえる児童の対象年齢と、学校教育という児童生徒との概念との整合性は図られているか。

事務局 図書館によって異なるが、当館では中学生までを対象としている。

委員 板野町在住であるが、板野・上板地区中心に「朝の読書タイム」を設け、今年度で11年目となる。今年も8月に読書交流大会を行った。おはなし会のグループもいくつか作っている。読書活動を推進しよう、読書を通じて子どもの成長を助けていこうという趣旨で活動している。地区の小中高校では、始業前15分間に好きな本を読んでもいいというのをやっている。また月1回、週1回といった頻度で、おはなしボランティアが来て1冊の本を読むということもやっている。

子どもに、本に対する興味を持たせ、まず学校の図書館を利用させ、それから町の図書館を利用するといった形で読書を推進している。

核家族が進み、共働き家庭が増える中で、図書館開館時間が6時までであり、本を借りに行きたいと思っても図書館が閉館しているのが現状である。

また、おはなし会について、図書館に来れば開催予定がわかるが、スーパーや小児科など親子で行くような場所でも広報をしてほしい。

月1回は8時まで開館というような開館時間の延長も検討していただきたい。市町村立図書館に要望しても、県立がやらなければ、市町村図書館はやらない。

会長 読み聞かせを行う場所が、月～金曜の午前中というところが多く、働く親では行けないとの声がある。実態を説明してほしい。

事務局 県立図書館では、「赤ちゃんとおはなし会」を毎月第2木曜日10時30分

から20分間、3歳から小学生までを対象としたおはなし会を、平成19年度からボランティアの協力を得て毎月第2第4日曜日1時30分から2時まで実施している。また、親子ふれあい等の行事の広報は、新聞の県庁便りにのせたり、市町村図書館・教育委員会、読書団体へ案内を送付している。

開館時間について、当館では平日午後7時まで開館している。

ファミリーサポートセンターに対しては、11月から予算化し、ファミリーサポートセンターへ行き、おはなし会を行う予定としている。

いろんな形で広げていきたいと思っている。

委員 ネットワーク図書館に関し、横断検索では、市町村図書館の蔵書も検索できるのか。また、その結果、遠隔の図書館にほしい資料があった場合の取り寄せは可能か。

事務局 蔵書情報を公開している図書館については横断検索できる。公開していない図書館についても、データが提供されれば県立図書館のサーバーから検索が可能となる。

県立図書館の資料は、自宅のパソコン等から検索し、近くの図書館で借り受けることが可能である。

市町村立図書館の資料は、近くの図書館へ行き借受けの依頼をすれば取り寄せが可能である。

会長 年報に1月17日に行われた文化講演会が掲載されていない。文化講演会については、今年度は実施予定がないようであるので、できれば開催してほしい。

### (3)「サービス向上目標」について

事務局 (資料により説明)

今回意見をいただいて、来年度見直しの参考にしたい。

副会長 重点事業の中にも掲げられているが、子どもに向けての支援について、高校生・大学生への視点もお願いしたい。

大学における卒論、レポート指導の中で、調べる力が低下していることに気付く。図書館の利用経験が減っているのも一因であるが、インターネットの普及により、調べることが容易となっている。インターネットに載っていることを、客観性を問わず、その内容を疑わず、そのままデータとして受け取っている。

ハイブリット図書館をめざすことは重要であるし、学生には利用を勧めているが、同時に、メディアリテラシー、知る喜び、プロセスを味わう喜びが失われることへの危機感を感じている。文字の啓蒙も忘れないでほしい。

委員 中学生、思春期から反抗期にかけて、一番活字離れが進む。図書館だけでなく、教育全体に関わることだが、支援が欠けていると感じている。

委員 集団読書のための資料をそろえてほしい。

事務局 県立図書館では、図書の貸出だけでなく、リテラシーの向上を目指している。本館

の司書職員を活かし、積極的な支援を行うのが、県立図書館の役割の1つと考えている。市町村では、司書も少なく、購入図書も身近な本が中心となる。今後の方向としては、情報を分析し、活用できる能力を高めるための支援をしていける図書館を目指す。集団読書用図書の購入も、学校支援を含めて、やらなければならないと考えている。

委員            デジタル化事業に関し、文化の森には、文書館、博物館、美術館があるが、各館とのデータの共有は考えているか。

事務局           博物館、文書館でもデジタル化事業を行っている。今後、これらを一括で閲覧できる仕組みを検討していく。観光資料についても、ワンストップサービスのできるページが作れるよう検討している。

会長            今回サービス向上目標というのが出されているが、平成19年度に出されたサービス向上目標の方がもう少し具体的な内容であったかと感じる。しかし、3年という短い期間で、インターネットやデジタル化といった新しい事業が出てきている。このような良い事業は積極的に進めていただきたい。

総局長           予算の削減、財政状況については、本県だけでなく、地方財政全体において厳しい。行政なので、それぞれの分野にそれぞれの必要性があり、図書館においてもその必要性を訴えながら予算の獲得に努めていきたい。

会長            平成20年度の協議会において、当時の館長から、本県の資料費が全国40位から下がったことについて、徳島県としては定位置との発言があったが、年間100万人近い来園者のある文化の森として、スムーズな運営のできるよう今後とも努力をお願いしたい。